

音楽三田会

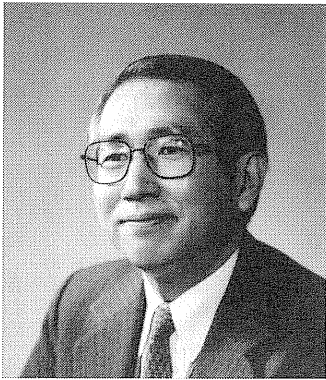
〒105 東京都港区西新橋1-10-8
-0003 第2森ビル
ミリオンコンサート内
音楽三田会事務局
TEL 3501-5638
FAX 3501-5620

ハイドン全集完成まぢか

中野博詞

ヨーゼフ・ハイドン全集がまもなく出版される。とはいっても1000冊、クラシック音楽に関心がない方には、どうでも良いことであろう。

しかし、ハイドンの全作品の全資料が蒐集され、これが最後のハイドン全集になるだろう、といえれば興味が出るであろう。ともかく今回のハイドン全集は難事業であった。モーツァルト、ベートーヴェンのそれぞれの全集は、いずれも19世紀に開始し、19世紀にいずれも完成しているが、今世紀に始まったハイドンは20世紀末までかかった



中野博詞氏

の前半にもドイツとアメリカで2回試みられたが、いずれもわずかな巻数だけで挫折してしまった。そこで、ハイドン復活の気運が高まってきた1955年、全1000巻にのぼるハイドン全集を新たに出版するために、周到な計画と十分な経済的背景をもって、西ドイツのケルンにヨーゼフ・ハイドン研究所が開設されたのである。資金は西ドイツ政府とオーストリア政府を中心

のである。それには理由がある。三大巨匠のなかで最も長命なのがハイドン。多作であるとともに贋作の多いのもハイドンなのであり、人気作曲家でもあるのである。

今回完成する新ハイドン全集が調査した資料は、32万をこえるマイクロフィルムである。ハイドン研究の苦心を理解していただくために、ハイドン研究の歴史を紹介しよう。

に、ケルン市やドイツ財界が出資し、初代の所長には今は亡きドイツ音楽学界の重鎮ブルーメが就任するとともに、学術主任には現代のハイドン研究の基礎を築き上げたラルセンが選ばれ、今日のハイドン・ルネッサンスの立役者のひとりであるランドンも参加した。

ハイドン研究所が着手した新しい全集は、学問的ハイドン全集と呼ばれるように、単にハイドンの楽譜を出版するだけではない。一つひとつの作品に対して、まず真偽問題が資料的に検討され、作曲年代と各ジャンル内での作曲順序が考察される。つづいて、当該作品に関するハイドン時代のあらゆる楽譜が調査研究され、作品の伝承経路が抽出される。こうした基礎研究の中に、ひとつの作品に関して数種類の信憑性の高い楽譜を選び出し、慎重な批判を加えながら、ハイドンが意図した姿の楽譜を校訂してゆくのである。

さらに、当該作品に関するハイドンの手紙など、あらゆる文書が調査され、作品に関する歴史的事実も解明される。したがって、ハイドン全集の各巻は、歴史的事実を記述した序文にはじまり、校訂された楽譜には詳細な校訂報告が付され、ハイドン全集をひととげば、当該作品に関するすべてが理解できるように配慮されている。

こうした学問的な校訂楽譜を作成するには、音楽史的な研究はもちろん、古文書学から書誌学にいたる、さまざま

な研究方法を必要とし、1曲に関して50種類以上の楽譜が保存されている場合も少なくないために、莫大な時間と労力が要求される。ハイドン研究所の所員でも、1巻を校訂するのに約3年を要し、われわれ外国の学者が校訂する場合は、10年あまりを費やすこともある。

しかし、ハイドン研究所の着実な研究だけが、今日のハイドン・ルネッサンスを推進してきたわけではない。ハイドン研究所の創設期に参加したランドンは、研究所の学術的であまりに慎重な研究態度に反発して研究所を去り、ハイドンの作品を1日でも早く実際の響きにしよう、といわゆるランドン版と呼ばれる実用的な原典版を、研究所とは別個に大変なスピードで出版しつづけている。

こうして、ランドンがハイドン・ルネッサンスの最先端に立ち、1960年からハイドン研究所の学術主任をつとめるフューダーを中心とする研究所の学者たちが、学問的な研究を通じて、ハイドンの楽譜を着実に再版しているのである。ハイドンの現存するオリジナルな作品に関しては、研究所版がまもなく完結し、編曲や改作も時間よみなのがハイドン復活の現状なのである。

学問的校訂楽譜ハイドン全集のまもない完成は、ハイドン像を大きく変化させた。まず、ハイドンが当時のあらゆるジャンルにわたって莫大な作品を残し、しかもそれぞれのジャンルで個

性的な音楽を生み出した、きわめて多彩な魅力を持つ作曲家である事実が、強調されなければならない。ハイドンは器楽と同様に声楽の大家でもあったのである。なかでも、ハイドンのオペラの復活は、最大の成果のひとつである。オラトリオとならんでオペラや教会音楽など、ハイドンの声楽曲が好んで上演されるようになった今日、ハイドンを、古典派時代のあらゆるジャンルにわたって、それぞれ意欲的な試みを行った総合的な大作作曲家として、とらえなければならぬ。

音楽三田会の17年――

初めの頃などあれこれ

事務局担当幹事

小尾 旭

来る2000年1月29日には、我等が音楽三田会はその第34回懇親総会を、賑々しく迎えようとしています。

ただ今会員は300名、惜しくも死去された方々は33名。慶應義塾の歴史から見て、17年は取るに足らない年月ですが、発足当時の頃を振り返って、私の自己紹介と共に以下記述し、ご覧に供したいと思います。

そもそも慶應義塾には音楽専攻科が無いにもかかわらず、音楽を専門の職業とし、また音楽関係の業務に就いている方達が多いので、会えばお互い話の通じる間柄ゆえ、たまには皆んな集

まって「いっぱいやるよ」ということで「音楽三田会」は始まりました。

昨年、会員増井敬二氏から頂きました資料、音楽新聞1936年版に、何と「音楽三田会」が発会とあり、驚きました。それによりますと、「音楽舞踊関係で活躍する者すでに100名近く、親睦を計るべく戦時警備下、銀座3丁目のオリオンで18名が集まり発足」とあります。その中に服部正（現音楽三田会名誉会長）、澄川久（会員村井靖児氏尊父）、井上武雄、有馬大五郎（N響副理事長・国立音大専長）芦原英了、吉本明光氏らの御名が連なっています。しかし、この会のその後は目下のところ消息不明です。さらに戦後間もなく「芸文三田会」なるものが出てきたそうです。藤浦洗、久保田萬太郎、佐藤春夫氏ら巨匠が創立総会を柳橋で開催、芸者を揚げて何しろ派手だったようですが、それが過ぎてか間もなく消滅。

そして1982年に我が「音楽三田会」が、あたかも地下茎から竹の子が生えてきたが如く、先人の偉業を受け継いで芽出たく発足したわけです。私は1955年文学部卒業です。その3月に今は滅亡しましたが、一時は日本最大の国際的音楽マネージメントのスタッフとなりました。初任給8000円を月末までに受け取れたのは入社時3月のみ。1年半で倒産してしまいました。門前の小僧で、反面教師の

下、あんなことならできるかな……と1956年にミリオンコンサート協会を創設しました。以来43年間、日本経済の荒波に採られながらも破産もせず、この世界に生きてきました。

ちょうどその頃、1956年に日本フィルが文化放送の下、新進交響楽団として華々しくスタートしました。私は日本フィルの一般公演や定期会員のサービス、N響に張り合って年末の第九演奏会などを一貫して手懸けしました。現音楽三田会会長・寺西春雄氏が日本フィルの事務局長に就任されたのが1957年のことで、それ以来、同氏のご厚誼を戴いています。

ところで、音楽業界にマネージャー協会という同業組合が1950年頃からあり、N響をはじめ全国のプロオーケストラ、二期会、主要音楽事務所など30程の団体が加盟していました。私もこの団体に入っており、年とともに活動が評価されたのか、理事の選挙では、1970～80年頃には常に上位選出の信任を得ていました。1982年の総会・理事選挙でも私が最高得票であったことを記憶しています。それに自信を得て、何かこの世界のために、そろそろ発言しても良いかな、また何かしなくてはいけないかな、と思い起したものでした。かねがね語り合っていた「音楽三田会」について寺西春雄氏と協議いたしましたのは1982年9月のことです。

「音楽三田会」を創らないか、とけしかけたのは、実は「稲門音楽会」の幹事長・評論家の向坂正久氏です。その頃、稲門音楽会は名誉会長に評論家の長老増沢健美氏、会長福原信夫氏（NHK音楽部長・東京音大専長・大阪万博音楽プロデューサー）、今やマルチタレントのバス歌手岡村喬生氏が副会長（1960年以来、私がマネージャー）、横溝亮一、長谷川武久、黒田恭一などの諸氏が結集し、新宿の鮎屋の2階あたりで定期的に会合を持ち、盛り上げていました。早稲田マンの音楽関係者数は慶應以上と思われず。向坂氏は早慶OBで「音楽早慶戦」をやるよと提案してきたものです。

その時私が考えたのは、折しも帝国ホテルに開設した「東京三田倶楽部」を根拠地にして会合を持てばグッド――私は倶楽部創設時からの会員――ということでした。この種の会合はしかるべき集会所の安定が何より必要で、毎回鮎屋やレストランというわけにはいきません。東京三田倶楽部のご協力を得て、会の運営はまことにスムーズに行っていると云っても過言ではありませんが。「稲門音楽会」はその後、早稲田ケをめぐる派閥争いの去就の末、休眠状態が今も続いているようで、したがって「音楽早慶戦」が未だ実現しないのは残念なことと言うべきですか？ 「音楽三田会」の今日の隆盛を聞くにつけ、「稲門音楽会」から見て垂涎

的だそうです。

話は1982年10月の昔に戻ります。「音楽三田会」には先ずクラシック、ジャズ、ポピュラー、邦楽のほか、あらゆる音楽関係者に呼びかけようということになりました。発起人、呼びかけ人には寺西春雄氏を筆頭に、放送界を代表してNHK・CIP三善清達氏、レコード界に顔の広い黒川昌満氏、N響「フィルハーモニー」編集長大山英治氏、塾関係で中野博詞教授、ポピュラー界はいソノテルラ氏その他の方々に東京三田倶楽部にご参集いただき準備を始めました。倶楽部存在の威力は初めから発揮されました。何しろ帝國ホテル内といえは話が早く、また会費も内容に比して低廉、すべてが好都合でした。今もって懇親総会費は一人5000円で結構なメニューをやつていただいています。

私の当時25年のキャリアで、クラシック界には一応の足がかりはありました。また商売柄ディテクティブのようなもので、行く先々、話の端々で慶應かな? という情報はかなり蓄積されています。クラシック界にいてポピュラー界にもある程度つながりがあるのは私かな……と思いました。いソノテルラさんとは1954年、学生時代にアメリカ軍のVOA放送と一緒にアルバイトして以来のつきあい。彼はポピュラー担当で、私はクラシックでした。藤山一郎先生とは、同じゴルフクラブ

で何度もご一緒させていただいた間柄、フランキー堺氏には何と、東京文化会館の日本フィル演奏会に特別出演していただき、パークッションの特技をお願い。ダークダックス諸兄とは、1958年に第1回ニューイヤークンサートを日比谷公会堂2660席超満員で開催して以来40年以上のおつきあいで、大きな声で言えませんが(もつとも4人も会員で分かっていますが)今以てたんまりと稼がせていただいている関係です。クラシック・ポピュラー双方に少しでも手がかりを持つ私が奔走するのは、当然のなりゆきでした。時あたかも山下博彦氏もこの種三田会の構想を抱いておられ、協同して作業を開始した次第です。

会員候補のリストアップを前記発起人諸氏のご協力で始めたところ、250名もの名簿が整いました。とにかく1982年12月10日を期して会則を定め、「音楽三田会」はここに新たに発足したわけです。設立趣意書、入会勧誘文と共に1983年2月12日の設立懇親総会へ向けて案内状を発送しました。

蓋を開けてみましたら、先ず150名の入会申し込みで、この会の創設がいかに待たれていたかを痛切に感じました。設立総会には100名近くのご出席を得、盛大な発会を遂げました。以後、会則にあります通り(多少の間引きはご容赦願ひ)名簿は12版、会報

は本号で10号を発行してまいりました。毎年の1月総会では東京三田倶楽部、7月懇親会は油井正一氏のアイディアで第5回からは屋形船で江戸情緒を満喫しています。

この間2回ほど、新設された三田山上の北新館ホールで会員出演のコンサート、そしてフランキー堺・油井正一両氏対談と「幕末太陽伝」試写会を開催いたしました。また毎月第1月曜日7時から、東京三田倶楽部で有志月例会を自由に開催していますことは、会報にある通りです。

そもそも「いっばいやろうよ」で始まったこの会ですが、10年も経つと少し趣が変わってきました。初めはこの業界である程度実績のある方々の、当然のことですが、集まり親睦会でした。しかし歴史を経るにしたがい、若い人達のために、文化を担う三田人のために、でき得ることを何か援助協力しようという気風が醸成されてきました。「音楽三田会」は親睦と交流のためですが、総会などの会合を通して、それが思わぬ仕事、商売につながって若い人達の利となることもあるようです。

それがこの会の期待もしていない自然の「いいところ」なのでしょう。この数年來、各方面でご活躍の20代、30代の若い方々が続々ご入会くださり、誠に喜ばしい限りです。したがって会を運営する幹事に若い方々になつていただいています。お時間の許す限り、月

例会に出席くださると、種々の音楽談義、社会経済文化政治問題等々、皆様日常生活を語り合える楽しいひとときが過ごせます。

この会が音楽を通して皆様と気おけない交流親善の場となり、また何か少しでもお役に立つことを念じております。ご協力を得て会を益々充実させることを願って拙文を閉じます。

「音楽三田会」会則

一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。
二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とする者、また音楽活動にかかわりのある者をもって会員とする。

三、定例懇親会は原則として年二回(一月、七月)開催する。

四、本会は、会長一名の他、副会長、監事、幹事および必要に応じて名誉会長、顧問、相談役を置くものとする。(複数可)

五、会員は入会の際に入会金(二万円)を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。

付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。

富士銀行新橋支店 口座名 音楽三田会
(東京都港区西新橋1-10-18)

口座番号 普通 986174番
03-3501-5638

音楽三田会会計報告 (1998.4.1~1999.3.31)

A 収入の部		555,488.-
入会金 4名		40,000.-
銀行利息		488.-
第31回 7月18日(土)屋形船会費 27名		270,000.-
サントリー音楽財団協賛ビール代		20,000.-
第32回 1月30日(土)東京三田倶楽部会費 45名		225,000.-
B 支出の部		874,208.-
第31回懇親総会・屋形船平井		280,000.-
第32回懇親総会・東京三田倶楽部		220,000.-
名簿第11版印刷費		129,775.-
会報第9号印刷費		52,500.-
封筒角3、長3、各500印刷製作費		24,150.-
出欠はがき印刷費2回		24,150.-
総会案内コピー代・写真		11,633.-
郵送費 はがき (@50×600)		132,000.-
切手 (@200×300、@140×300)		
C 前期からの繰越金		△893,589.-
A-B+C=次期へ繰越金	合計	△1,212,309.-

●第32回音楽三田会懇親会出席者

1999年1月30日(土) 1時

東京三田倶楽部

荒井宣之、磯地英樹、石川浩司、磯村健二、岩間宏文、牛島邦英、笈田敏夫、大橋節夫、大橋幸雄、大村正二、大山英治、岡田龍之介、小尾旭、加藤浩子、金窪周作、喜早哲、黒川昌満、後藤暢子、後藤田純生、後藤田夫規子、呉信樹、斎藤純一郎、桜井武、高浜哲郎、滝口明、筒井健士、中尾知彦、中川滋、中村勝彦、根岸基夫、乃村博子、原田節、又村里実、美山良夫、三善清達、峰岸莊一、森千二、柳澤哲哉、山崎一夫、山下博

吉田雅樹、渡辺純子(以上45名)

●第33回音楽三田会懇親会出席者

1999年7月17日(土) 6時

東京湾屋形船

天野乃里子、石川嘉一、磯地英樹、大石泰、磯村健二、植田紗加栄、小尾旭、大山英治、金森圭司、小森昭宏、呉信樹、佐久間公子、佐藤正明、清水久嗣、高濱哲郎、高山津図武、滝口明、寺西春雄、中尾知彦、中川滋、長田新太郎、中村勝彦、乃村博子、山下博、吉田進、吉田雅信、渡辺純子(以上27名)

◎新入会員紹介

◇吉田雅樹君(商19969卒) 名古屋
屋音楽学校・学校長(会員吉田春

樹君令弟)

◇湯浅玲奈さん(工1981退) 横浜

家庭裁判所医務室技官・内科医
(公員湯浅譲一君令嬢)

◇牛島邦英君(商1985卒) 指揮者

◇佐久間公子さん(文1984卒)

慶應普通部事務局勤務

◇小坂叡華さん(商1969卒) ト

ラミュージック・ミクナムレコー
ド代表取締役

◇平井元喜君(文1995卒) 英国

王立音楽院大学院卒、作曲・ピアニ

◇宮本信生君(法1962卒) オフ

イス愛アート・代表取締役、世界

平和研究所研究顧問、元チエコ大

使で国際政治の専門家、法学博士

*親子会員3組、兄弟会員3組誕生
となりました。近年家族の絆がとも
すればすたれがちの時代、喜ばしい
かぎりです。

●毎月一回会合しています

毎月第一月曜日七時から、帝国

ホテル本館地下二階の東京三田倶楽

部にて、月例の幹事打合せ会を行っ
ております。音楽三田会会員はどな
たでも出席自由です。(第一月曜日
休日の場合は第二、第三月曜)

音楽三田会役員

会長 寺西春雄

副会長 笈田敏夫

副会長 大橋節夫

名譽会長 服部正

幹事(以下あいうえお順)

安倍 寧

石川 浩

石橋 裕

磯村 健二

岩尾 純一

大山 英治

岡山 弘道

小尾 旭

観世 栄夫

喜早 哲

北村 英治

黒川 昌満

黒沢 宏

小森 星

小森 宏

呉信 昭

清水 久

滝口 明

中野 詞

中村 宏

西村 宏

乃村 博

美山 良夫

三善 清

山田 治

吉田 雅

(編集担当)

(広報担当)

(企画担当)

(事務局担当)